

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年																
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月 ~2日	5月 ~9日	5月 ~16日	5月 ~23日	5月 ~30日	6月 ~6日	6月 ~13日	6月 ~20日	6月 ~27日	7月 ~4日	7月 ~11日	7月 ~18日	7月 ~25日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	22	26	43	43	35	32	39	20	24	37	39	28 (30)	15
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	16	9	12	5	13	12	23	17	12	24	13	18 (19)	6
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	2	0	
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	1	0	2	0	2	2	1	1	4	4	3	2	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	3	8	9	11	8	6	9	5	5	8	4	3	2
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	9	8	5	2	7	6	4	1	2	5	6	3	0
腸炎ピリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	2	0	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	3	3	2	3	2	2	5	0	2	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第29週(7月19日~7月25日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	3	結核	3			1				2
三類	5	腸管出血性大腸菌感染症	5			3		2		
四類	5	重症熱性血小板減少症候群	1						1	
		レジオネラ症	4				2	1	1	
五類	2	急性弛緩性麻痺	1							1
		梅毒	1			1				
新型インフルエンザ 等感染症	191	新型コロナウイルス感染症	191	14	3	61	0	64	2	47

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第29週に、64件の報告がありました。全国では、東京を中心とする首都圏だけでなく、関西圏をはじめ多くの地域で新規感染者数が増加しており、広島市においても増加傾向に転じています。

感染の再拡大を防止するため、引き続き、マスク着用、手洗い、「密」の回避など、基本的な感染防止対策を徹底しましょう。夏休みなど人の動きが活発になる時期ですが、感染拡大地域へは行かないようにしましょう。また、感染拡大地域の家族や友達を呼ばないようにしましょう。やむを得ない事情で、広島に来られる人にはPCR検査を勧めましょう。

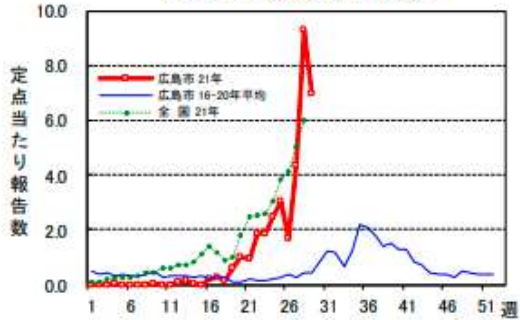
【参考】感染状況に応じた早期対応【R3.7.21会見】(広島県)
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/2019-ncov/20210721.html>

2 RSウイルス感染症

定点当たり6.96人の報告があり、多い状況が継続しています。生後数カ月までの乳児が初感染した場合は、重症化しやすいといわれています。咳等の呼吸器症状がある人との接触を避け、おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒、手洗いの励行に努めましょう。

【参考】RSウイルス感染症Q&A(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

RSウイルス感染症の流行状況



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)過去5年間	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね
												急増	急減	
フィレン	インフルエンザ	-	-	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	7	0.29	0.23		急増	急減	1:2以上の増減
小児科	咽頭結膜熱	1	0.04	0.67		小児科	RSウイルス感染症	167	6.96	0.43		急増	急減	1:1.5~2の増減
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.29	1.83			眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03		急増	急減
	感染性胃腸炎	39	1.63	3.72		眼科	流行性角結膜炎	4	0.50	0.75		急増	急減	ほとんど増減なし
	水痘	-	-	0.30			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		急増	急減
	手足口病	1	0.04	4.21		無菌性髄膜炎		-	-	0.03		急増	急減	
	伝染性紅斑	-	-	0.17		マイコプラズマ肺炎		-	-	0.23		急増	急減	
	突発性発しん	6	0.25	0.22		クラミジア肺炎(オウム病を除く)		-	-	-		急増	急減	
	ヘルパンギーナ	5	0.21	0.90		感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	-		急増	急減	

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	11	10歳未満・O26、10歳代・O26
4	レジオネラ症	2	24	50歳代、60歳代
5	梅毒	1	32	20歳代
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	13	80歳代

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査：広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の疾患	発熱(40.3℃) 紅斑 嘔吐 肝機能障害 結膜炎 血尿 リンパ節腫脹 蛋白尿 鼻炎	0	2021/05/03	咽頭拭い液 糞便	Aデノウイルス5型
その他の消化器疾患	腸重積	1	2021/02/21	糞便	Aデノウイルス2型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載